

胆道癌根治切除患者を用いた臨床病理学的な予後不良因子の検討 に関する研究

1. 研究の対象

2000年から2012年までに国立がん研究センター東病院肝胆膵外科で胆道癌の根治切除が行われた方

2. 研究目的・方法

胆道は肝臓で作られた胆汁の十二指腸への流出経路であり、肝内胆管、肝外胆管、胆嚢および膵頭部の4部位からなります。本邦における胆道癌の年間罹患患者数が約2万人に対して年間死亡者数は1.8万人と近似しており、予後の悪い疾患ですが、治療法は現在のところは切除のみが唯一の根治的治療です。しかし、切除例でも5年生存率は40%程と決して高くはありません。また、術後補助化学療法などの有効性も明らかではなく、手術や化学療法などを含めた集学的治療は確立されていないのが現状です。集学的治療法の開発のためには手術成績が不良な胆道癌患者を特定することが必要ですが、現在まで胆道癌全体での予後因子として明らかかなものはありません。よって、胆道癌切除患者において臨床病理学的な予後不良因子を明らかにすることは今後の集学的治療の確立に向けて非常に意義のあると考え、本研究を行いたいと考えています。

研究実施期間:2019年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、手術内容、病理学的組織検査所見の結果、カルテ番号、生年月日、診断目的に採取された病理標本 等

試料：なし

4. 試料・情報の公表

本試験終了後、研究者はその成果をまとめ、論文および学会にて発表します。

また、国立がん研究センターの公式ホームページにおいて研究概要の公開を行います。公開する事項は、当該研究の意義、目的、方法、研究機関名、問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先に関する情報とします。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科 大久保 悟志
TEL 04-7133-1111 / FAX 04-7131-4724

研究責任者：光永 修一
国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
TEL:04-7133-1111 (内線 91026)
Fax:04-7134-6917
E-mail:smitsuna@east.ncc.go.jp